

## ノウサギの展示再開について

6月末から7月初旬にかけて、ウサギ出血病が原因で、キュウシュウノウサギとトウホクノウサギ8頭が死亡しました。その後、ノウサギ獣舎と放飼場の消毒を行い、感染拡大防止のための対策を徹底したところ、現在までにノウサギやカイウサギでの新たな発症は見られません。

そこで、10月4日より、ノウサギの展示を再開することとなりました。今回展示を再開するのは室内展示場で、これまで同様に消毒を徹底し、お客様との距離を十分保った上での展示再開となります。また、石灰散布を行った放飼場の展示については、今後、12月以降に予定されているリニューアルへ向けたノウサギ舎・放飼場の改修工事の際に土壌の入れ替えを行った後、ノウサギを放飼する計画となっており、今回の展示再開は見送ることとなりました。

展示再開をお待ちいただいている皆様には、ご心配おかけしましたが、今後もノウサギたちの元気な姿を見ていただけるよう、現在飼育中の7頭についても健康管理を継続しながら、感染症の再発防止に努めて参ります。

また、展示再開へ向けてAmazon欲しいものリストで遮光ネットおよび結束バンドを購入していただいた皆様、本当にありがとうございました。飼育担当並びに職員一同心より感謝申し上げます。

遮光ネットと結束バンドは、園内に生息する野生動物からの接近やプレッシャーからノウサギを守り、よりよい放飼場に改善するために使用する予定でしたが、リニューアルへ向けた改修工事の内容に、外敵の侵入または接近防止に考慮した放飼場に改修することを追加項目としましたので、遮光ネットと結束バンドを必要としている他の動物（ラマなど）に優先して使わせていただきたいと思っております。ノウサギのためと送っていただいた皆様のお気持ちに応えることが出来ず、大変申し訳ありません。何卒、ご了承いただければと思います。

### 参考：ウサギ出血病について

野生あるいはカイウサギの急性かつ致死率の高い疾患で、感染した個体との直接・間接的な接触などにより伝播します。2ヶ月齢以下の若齢ウサギは発症しません。また、感染したウサギは元気消失、食欲廃絶、発熱、神経症状、鼻出血などの症状を示し、数日の経過で死亡します。何も症状を示さず突然死することもあります（致死率は40～90%）。この病気の治療法はなく、感染防止には徹底した消毒が必要です。海外ではワクチンも実用化されていますが、国内では承認されていません。

（農研機構 動物衛生研究部門 HPより）

2020年9月13日

盛岡市動物公園 ZOOMO

園長 辻本恒徳